

タイヨウ の うた

A Song to the Sun

太陽にあたれない彼女に恋をした。



YUI

塚本高史

麻木久仁子

岸谷五朗

監督:小泉徳宏

主題歌:YUI『Good-bye days』 作詞/作曲 YUI (Sony Music Records Inc.)

脚本:坂東賢治

製作:「タイヨウのうた」製作委員会 制作プロダクション:ROBOT 配給:松竹



©2006「タイヨウのうた」製作委員会

www.taiyonouta.jp

「僕達は、太陽の下では出会えなかった。」

夜しか生られない彼女と、
サーフィンの好きな昼を生きる少年。
何の接点も無い二人だった。

雨音 薫 16歳。彼女は学校にも行かず、陽が沈むと毎夜ギターを持ち駅前の広場で歌い続けた。昼は眠り、夜活動するという普通とは正反対の生活。薫は太陽の光にあたれないXP(色素性乾皮症)という、病気だったのだ。そんな彼女が唯一の生きがいにしているのは、歌を歌うこと。そんな彼女に、人生を大きく変える出来事が起こる。

午前四時、日の出前に帰宅する薫。部屋の窓から外を眺めるとそこには、サーフボードを抱えた一人の少年がたたくんでいた。

そして、運命の出会い。夜明けまでの数時間に訪れ、太陽の下では決して出会えない二人を引き寄せた。しかし、孝治は病気の事を知らない。2人は急速に仲良くなり夜の街で会い続けた。そして、ある事件をきっかけに孝治に病気の事を知られてしまった薫。やっぱり、夢なんて見なければ良かった。私は普通じゃないんだから、と初めての恋もあきらめ、歌までもやめてしまった。そんな薫に、「夜だけおおうよ」と励ます孝治は、薫に素敵なプレゼントを思いつく。

今までは傷つけないように、夢を見るつもりもなかった薫。でも彼女の心は彼の光に触れることで、夢なんて壊れてもいい、もう一度歌いたい!と決心をする。しかし、彼女の病気は静かに進行し、ギターも思うように弾けなくなってしまっていた。

《 切なく、美しい愛の物語 》

製作にあたって、ヒロインには映画初主演となるミュージシャン・YUIをキャスティング。デビューシングルが、いきなり月9ドラマ主題歌という型破りなミュージックシーンへの登場をかざったYUI。そして、劇中でもギターを持って歌うYUIは、主人公とオーバーラップし、まるでこの映画のために存在するように、感動への序曲を歌う。

そして、監督には小泉徳宏。制作プロダクションROBOTが、新しく映画界に送り出す25歳の新鋭監督。18歳の天才ミュージシャン・YUIとのフレッシュなコラボレーションで、新風を送り込む。

YUIの相手役に選ばれたのが、「木更津キャッツアイ」等数多くの映画に出演し、人気、実力共に若手No.1の塚本高史、父親役にベテラン役者の岸谷五朗。そして母親役には麻木久仁子など、豪華な共演陣が勢ぞろいし、奥が深く忘れることができない感動を作り上げる。



「夢なんて壊れてもいい。もう一度歌いたい。」



YUI 塚本高史 麻木久仁子 岸谷五朗

監督：小泉徳宏 主題歌：YUI「Good-bye days」作詞/作曲：YUI (Sony Music Records Inc.) 脚本：坂東賢治 音楽：椎名KAY太 製作総指揮：迫本淳一 企画：細野義朗
製作：久松猛朗・阿部秀司・村松俊亮・吉鶴義光 プロデュース：榎望・堀部徹・鈴木謙一 プロデューサー：守屋圭一郎 ラインプロデューサー：石田和義
撮影：中山光一 照明：武藤要一 録音：藤本賢一 美術：都築雄二 装飾：龍田哲児 スタイリスト：梅山弘子 編集：三條和生 音響効果：岡満晶彦
スクリーン：皆川悦子 助監督：安達耕平 制作担当：金子堅太郎 写真：藤井昌之 宣伝：KICCORIT & P2
製作：「タイヨウのうた」製作委員会 制作プロダクション：ROBOT 配給：松竹 ©2006「タイヨウのうた」製作委員会

www.taiyonouta.jp

2006年6月17日(土) 全国ロードショー♪

LIVE
LIFE
LOVE